

(公財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第8回)

概要報告

1. 日 時 平成25年10月22日(火) 14:00~16:30

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	産業技術総合研究所		阿部 信太郎
	東京大学地震研究所	教授	岩崎 貴哉
	東北大学	准教授	岡田 知己
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	小原 一成
	東京大学	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	株式会社ホームサイスマメータ		堀内 茂木
	顧問	東北大学	名誉教授
(公財) 地震予知総合研究振興会会長			高木 章雄
事務局	(公財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成25年度上半期の活動報告
- (2) 地震・防災情報の実利用に関するコミュニティエフエム局での実証実験
- (3) 砂と粘土はどうちがうか?—地震による表層地盤の変状に関連させて—

4. 委員会の状況

平成25年度上半期の活動報告として①地震活動状況等について、②GPS観測結果等について説明があったのち、観測データの利用法、大地震時の地盤変状等の幅広い分野における最新の調査研究について話題提供があった。

(1) 平成25年度上半期の活動報告

平成25年度上半期の活動報告が行われた。

- ① 本検討で整備した稠密地震観測網（AN-net）の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ、委員会では、トモグラフィ解析結果と震源分布の関係、気象庁による一元化震源との比較等について意見交換が行われた。
- ② GPS観測結果等について、観測網の維持管理状況及びデータ処理の状況について説明がなされた。データ処理においては米国GPSのみならずロシアGLONASSへの対応状況について説明が行われた。委員会では、大きな設備変更は伴わず、ソフト更新のみで対応可能であることが確認された。

(2) 地震・防災情報の実利用に関するコミュニティエフエム局での実証実験

観測データの利用法の最新の調査研究として、緊急地震速報、強震モニタなどの地震・防災情報を、コミュニティエフエム局を通じて住民へ伝達するシステムを構築し、実証実験を行った内容が紹介された。委員会では、配信する情報の内容など意見交換が行われた。

(3) 砂と粘土はどちらがうか？—地震による表層地盤の変状に関連させて—

大地震時の地盤変状等の最新の調査研究に関する話題として、地震による表層地盤の変状に関連させて砂と粘土がどちらがうか講演が行われた。委員会では、液状化現象等に関連した意見交換が行われた。

以 上